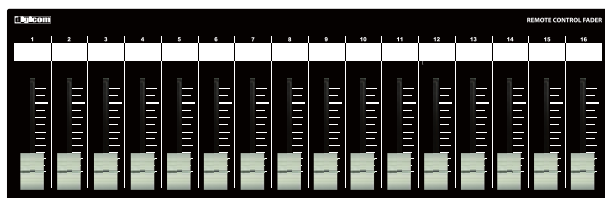




Power over Ethernet Fader for BIAMP Tesira

LF16B-PoE

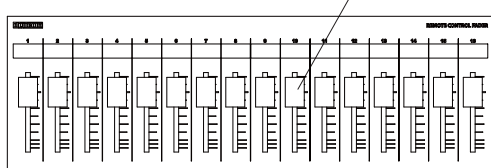
取扱説明書



LFシリーズの特徴

LF16B-PoEはBIAMP社製品Tesiraシリーズのミキシング機能の一部をコントロールすることが可能な設備用フェーダーユニットです。誤操作などを避けるため、ON/OFFスイッチや設定ボタンなどを搭載しておりませんので宴会場や会議室など、専任オペレータがいない場所でも簡単に扱うことができます。

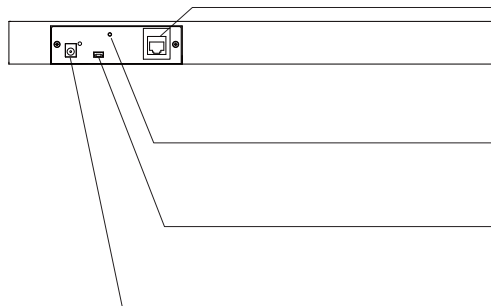
■フロントパネル



フェーダー

16ch分のボリュームコントロールができます。
BIAMP TesiraのコントロールしたいフェーダーのインスタンスIDを設定してください。
LF16Bのch1で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader1
LF16Bのch2で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader2
以下同様に16までとなります。

■リアパネル



RJ45端子(PoE対応)

BIAMP Tesiraのコントロールデータを出力します。
IEEE802.3af対応のスイッチングハブと接続することによりACアダプターが不要となります。
配線にはCAT5e以上のLANケーブルをご使用ください。

M3ネジ穴

DCプラグの抜け防止等に使用してください。

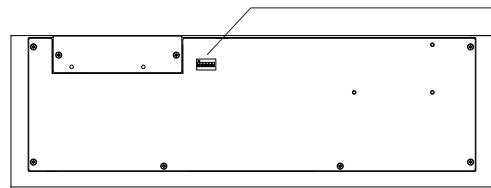
USB端子

ファームウェアアップデート用です。使用しないで下さい。

DC IN端子

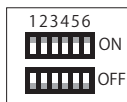
接続機器がPoE給電非対応の場合は、付属品のACアダプターを接続してください。
※PoE給電を受けている場合も、ACアダプターをご併用頂いて問題ございません。

■ボトムパネル



DIPスイッチ

- ・本体とDSPを1対1で接続する場合、全てのDIPスイッチをOFFに設定してください。
- ・1台のDSPに対して本体を複数台接続する場合、DIPスイッチの設定が必要となります。設定方法はP4をご参照ください。※複数台での接続は4台まで動作確認をしております。



IPアドレスについて(必ずお読みください)

LF-BのIPアドレスは192.168.0.168に設定されており、DHCP非対応です。
初期設定でIPアドレス192.168.0.100のBIAMP Tesiraをコントロールすることができます。
LF-BのIPアドレスを変更する場合や、コントロール先のBIAMP TesiraのIPアドレスを変更した場合は同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。

仕様

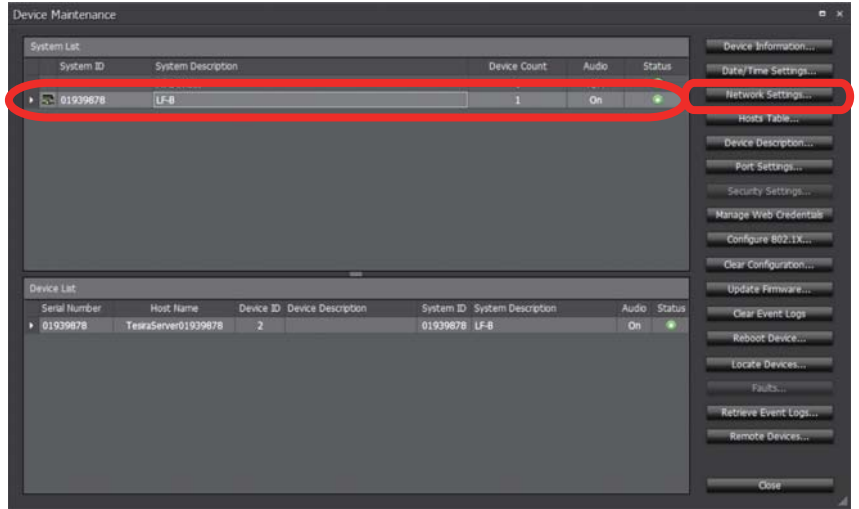
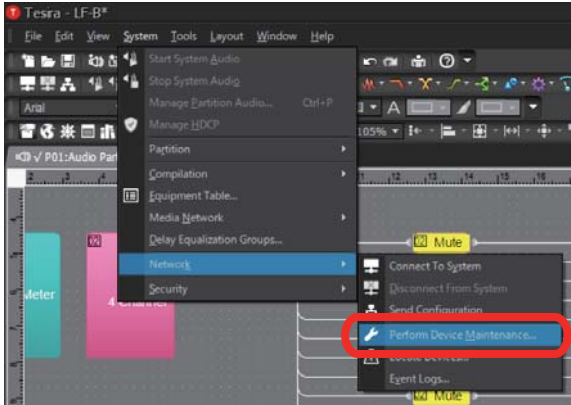
出力端子	:RJ45
伝送規格	:TCP
イーサネット規格	:10/100BASE-T
PoE受電	:IEEE802.3af
IPアドレス初期値	:192.168.0.168
IPポート初期値	:23
電源電圧	:9V / 0.3A
付属品	:ACアダプター
塗装	:黒
サイズ	:W410×D132×H36
重量	:2.1kg

Tesiraの設定方法

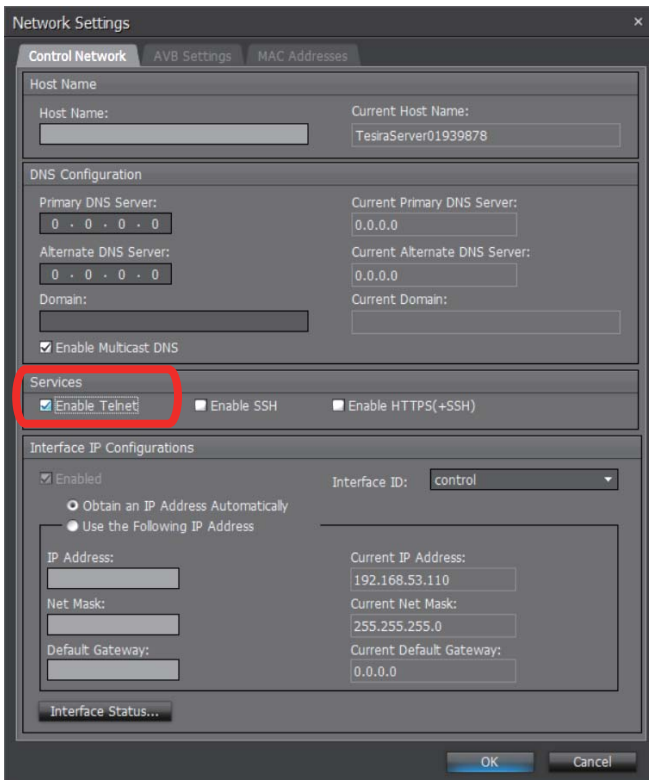
※本マニュアルはソフトウェアバージョン 4.0.0.21049での設定方法となります。
動作確認ファームウェア:バージョン4.1.0.36

■Tesira本体のIPアドレスを設定する

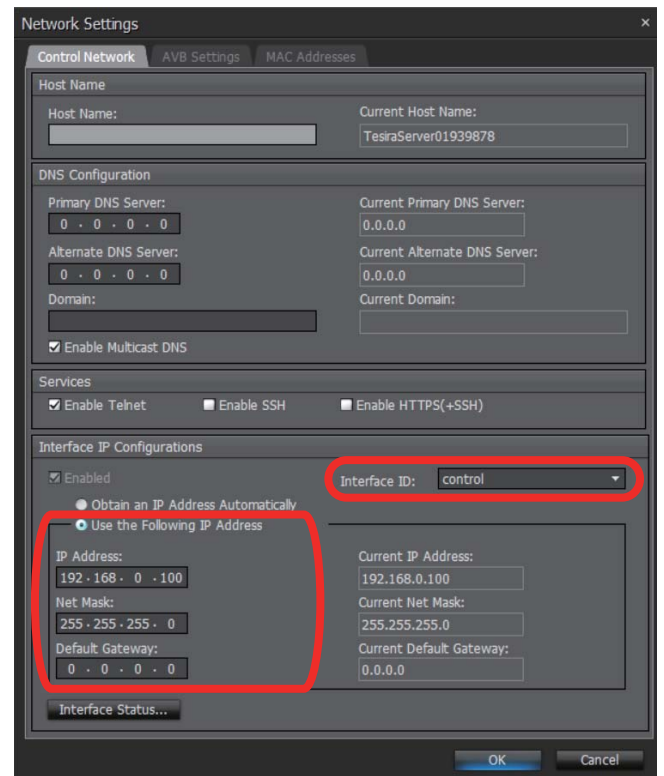
- ①Tesiraを開きメニュー「System」―「Network」―「Perform Device Maintenance」を開きます。
表示された画面からコントロールしたいTESIRAのSystem IDを選択し、「Network Settings」を開きます。



- ②Control NetworkタブのServices欄の「Enable Telnet」にチェックをつけます。

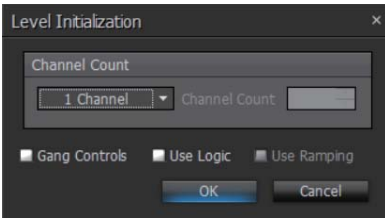


- ③Interface IP Configurations欄のInterface IDが「control」になっていることを確認します。続いて「Use the Following IP Address」にチェックをつけIPアドレスを192.168.0.100, Net Maskを255.255.255.0, Default Gatewayを0.0.0.0に設定します。
※IPアドレス192.168.0.100以外のTesiraをコントロールする場合 LF-Bのネットワーク設定を変更しなければなりません。
変更される際は同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。

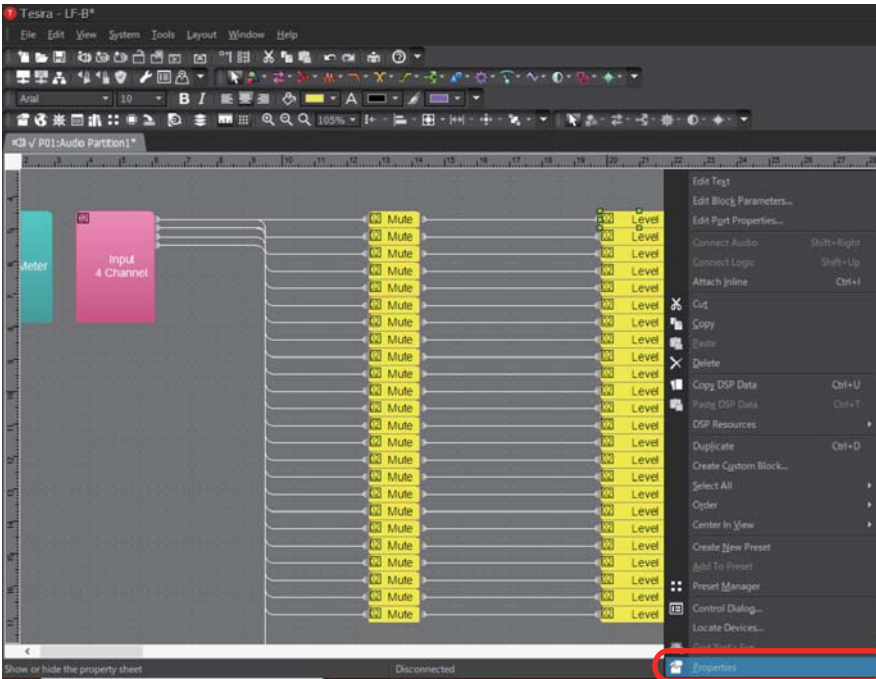


■フェーダーをアサインする

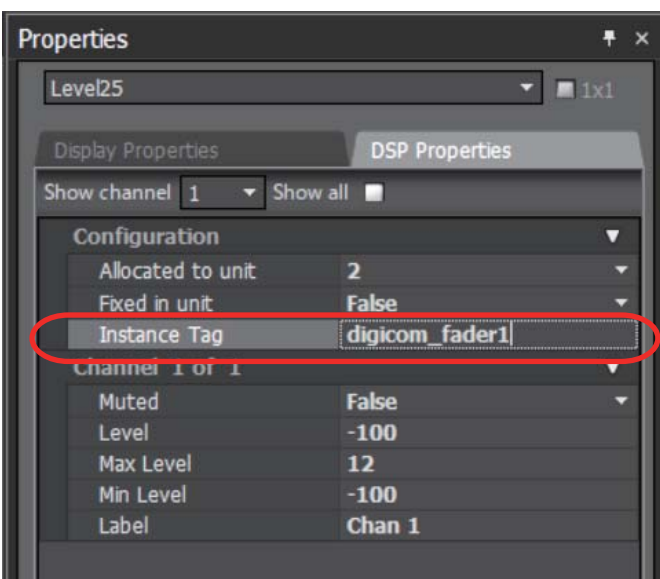
- ①Control BlocksよりLevelを配置します。Level作成時、「Channel Count」は「1 Channel」にしてください。LevelはLF-Bフェーダーのアサインしたいチャンネル数分、用意してください。
(LF08Bの場合は8、LF16Bの場合は16、LF24Bの場合は24)
※複数のLevelを1度にコントロールしたい場合には、「Gang Controls」をチェックし、必要なチャンネル数を選択してください。



- ②フェーダーにアサインしたいLevelを右クリックし「Properties」を選択します。



- ③表示されたPropertiesから「DSP Properties」タブを選択
Instance Tag欄に、「digicom_faderxx (xxは操作したいフェーダーのチャンネル番号)」と入力して下さい。
「digicom_fader1」はLF-Bフェーダーの1CHとなり、「digicom_fader2」はLF-Bフェーダーの2CHとなります。
※「Instance Tag」は同一のものを使用することができませんのでご注意ください。



1台のDSPに対して、複数台のフェーダーを使用する場合

1台のDSPに対して、複数台のフェーダーを使用する場合、DIPスイッチとIPアドレスの設定が必要となります。DIPスイッチの設定により、コントロールするインスタンスIDの設定が異なります。詳しくは下記表でご確認ください。

フェーダーのIPアドレスを変更する方法については、同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。

■DIPスイッチによるインスタンスIDの設定

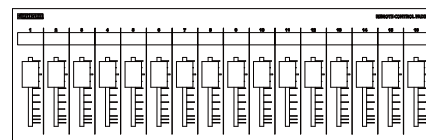
インスタンスIDの設定			
123456	LF08	LF16	LF24
	1~8	1~16	1~24
	9~16	17~32	25~48
	17~24	33~48	49~72
	25~32	49~64	73~96
	33~40	65~80	97~120
	41~48	81~96	121~144
	49~56	97~112	145~168

例) LF16Bを2台同時に接続する時

- ① 1台目のLF16Bを、DIPスイッチ全OFFに設定する。



LF16Bのch1で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader1
LF16Bのch2で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader2
以下同様に16までとなります。

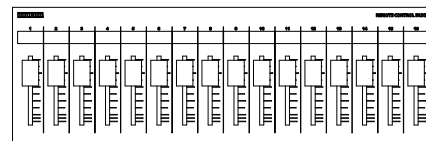


①インスタンスID 1~16に設定される

- ② 2台目のLF16Bを、DIPスイッチ 1のみONに設定する。



LF16Bのch1で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader17
LF16Bのch2で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader18
以下同様に32までとなります。



②インスタンスID 17~32に設定される

- ③変更されたインスタンスIDのフェーダーをアサインする方法は、3ページ目をご確認ください。

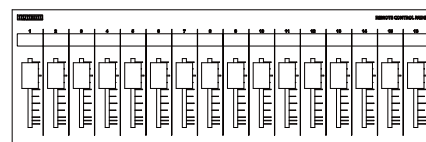
※注意 誤動作の原因になりますので、以下の点にお気を付けください。

複数台のフェーダー間で、インスタンスIDが重複しないようにDIPスイッチを設定してください。

組み合わせで使用できないDIPスイッチの例

- ① 1台目のLF16Bを、DIPスイッチ全OFFに設定する。

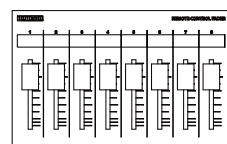
LF16Bのch1で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader1
LF16Bのch2で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader2
以下同様に16までとなります。



①インスタンスID 1~16に設定される

- ② 2台目のLF08Bを、DIPスイッチ 1のみONに設定する。

LF08Bのch1で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader9
LF08Bのch2で操作する値のインスタンスIDはdigicom_fader10
以下同様に16までとなり1台目のインスタンスIDと重複してしまう。

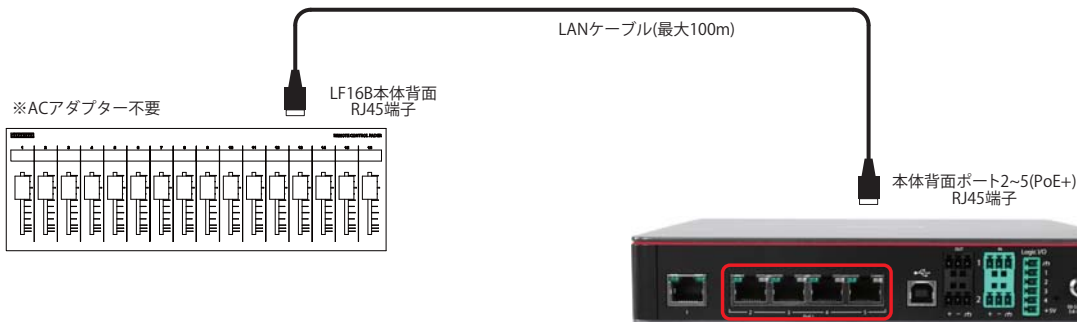


②インスタンスID 9~16に設定され
1台目のLF16Bと重複するので使用できない

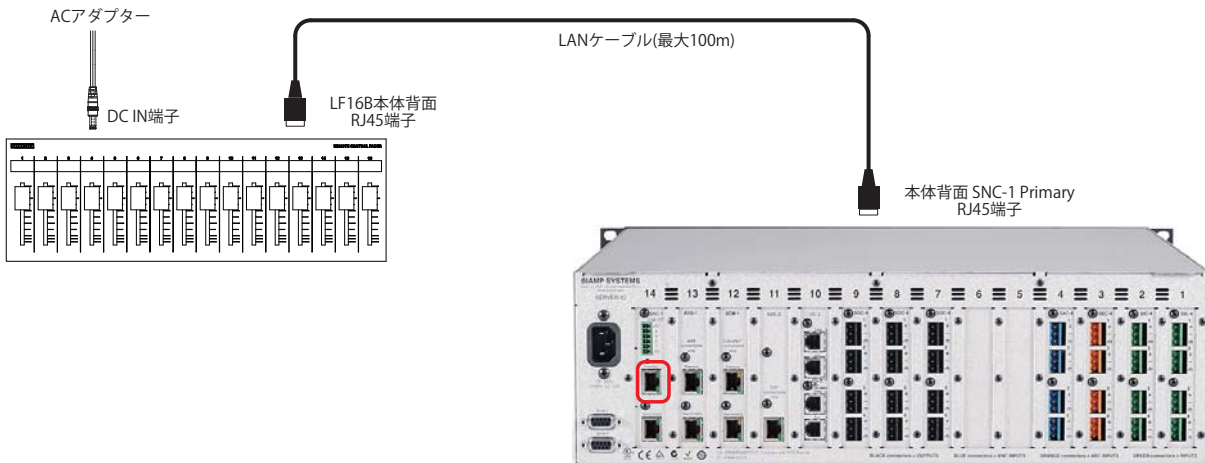
■例1 Tesira Forte AVB AI



■例2 Tesira Forte X



■例3 Tesira SERVER



■商品に関する注意事項

持ち運びする際、移動時に強い衝撃を与えないで下さい。
 水のかかる場所や直射日光が当たる場所での長時間の使用は避けて下さい。
 海浜部、温泉地帯など金属のさびやすい場所では本体や取付金具の耐久性が低下する場合がありますのでご注意下さい。
 ラックマウントして扱う場合、正しく設置しないと落下する恐れがあります。
 機材を引き出した状態で上下から負荷をかけますと事故や怪我の原因となります。
 D-RACK1など引き出し付きの機器を収納する際、指を挟まないように注意して下さい。
 万が一異音や異常、熱をおびた場合はすぐに使用を中止し電源を切り、メーカーまでご連絡下さい。

■保障に関して

本機にはシリアル番号で製造、出荷年月日が管理されておりますので、保証書は添付されておりません。
 万が一、故障した場合は製造日より1年間は無償で修理いたします。

※使用方法の誤りにおける破損・故障に関しましては有償となります。また、不適切な使用や改造による故障や怪我は補償いたしかねますのでご了承下さい。

■損害に対する責任

この商品の使用、または使用不能によりお客様に生じた損害については、当社は一切その責任を負わないものとします。
 また如何なる場合でも当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになった商品の代価相当額をもってその上限とします。

お問い合わせ

有限会社デジコム

〒454-0012 愛知県名古屋市中川区尾頭橋3-11-15
 TEL:052-324-8385 FAX:052-324-8386
 E-Mail:info@e-digicom.co.jp
<http://e-digicom.co.jp/>

製品サポート

音響特機株式会社

東京都中央区日本橋小伝馬町10-1 CSSビルディング3階
 TEL:03-3639-7800 FAX:03-3639-7801